



ひとみ つうしん



視覚支援センター

(山形県立山形盲学校内)

令和2年12月発行 第3号

寒さも少しずつ厳しくなり、本格的な冬の訪れを感じられる頃となりました。ずいぶん寒くなってきましたが、みなさんいかがお過ごしですか。今年度最後の研修会は、本校高等部普通科の矢野みわ教諭を講師に、「ことば」について考えてみました。3名の方が参加されて、みんなで考え体験する活動も交えながら、心を育てる豊かなことばを獲得するためには周りの大人はどうかかわればいいのかを学びました。今回はその様子をお伝えします。

第2回ひとみくらぶ

テーマ「心を育てる豊かなことば」



研修会より 講師：矢野 みわ（本校高等部普通科教諭）

普段、何気なく使っている「ことば」は生まれつき備わっているのではなく、周囲の人とのことばのやりとりの中で養われるものです。ことばの獲得においての最適期は、もちろん乳幼児期になります。見えない・見えにくいお子さんにとっては、外界の様子が分からず、行動範囲が狭くなりがちです。そこで、周りの大人が適切な働きかけをしたり、子どもの反応に豊かに応えたりすることがとても大切になります。

体験に裏付けられた確かな言語を獲得するためには、直接経験の機会を増やすことがとても大切です。手で触ったり、身体全体で体験したりすることのできる環境を豊富に用意し、確実にかつ多様な経験を積むことで、言語の適切な理解とイメージ形成につなげていきます。

普段の生活の中で大人がしていることを、時間をかけて丁寧に知らせながら、お子さんと一緒にやってみましょう。

一緒に楽しみながら、体の動きや気持ちに丁寧に言葉を添えると「ことば」も「心」も育ちます。



最後に、『さまざまな体験を通してことばが豊かになること、ことばを通して他の人とわかり合いかわり合えることなどを願いながら、日々の積み重ねを大切にしていきたいと思います。』と伝え講話を締めくくりました。

座談会の話題より



ひとみくらぶ後半の座談会では、『こんなとき、どう言ったらいいの?』をテーマに、子供役・親役・観察役を決めて、いろいろな場面での言葉がけを体験しました。話題からいくつかご紹介します。

★「見えにくい子供にゾウさんの大きさをどう伝えればいいのか？」

先輩ママから



- 身近なもので例える。例：「お母さんの車2台分くらいだよ」
- 長い説明よりその場で実際に見て聞いて感じたことをそのまま伝える。
(その場の匂いや鳴き声、驚きや発見など) 例：「サルのお尻が赤いよ！」
- ドキドキをワクワクに変える言葉がけをして、親も一緒に楽しむ。

本校矢萩教諭から

- 子供の分かる言葉で例える、伝えることが大切。
- 八木山動物園ではゾウやカバの餌やりができるので体験してみる。
- よく見えないときはタブレットで撮影し、手元で拡大して見せるとよい。

★「どうすれば言葉を話すようになるの？ このまま指差しをさせていてもいいの？」

- 指差しはコミュニケーションの一つ。十分に受け止めて言葉を添える。
- 今は言葉を話さなくても、ちゃんと理解している。
- 声を出すことが楽しい環境になるよう、言葉に動作を付けて楽しむ。
例：「おはよう～(チュッチュッ)」 「(お鼻にタッチして)ピンポン！」
- 二つのものからどちらがいいか選ぶ、という小さな選択を繰り返す。
- 今分かっていることからほんのちょっとだけ難しくするくらいがよい。



本校矢萩教諭から



- 大人とのかかわり以上に、同年代のお子さんとの触れ合いがとても大切。
友達からの刺激が成長につながる。時に大人が橋渡しを。

本校石塚教諭から

- 絵本の読み聞かせで、実際に体験できないことでも想像して楽しめると語彙が増える。
- 絵本の世界をイメージできるように、実物や似ている物をじっくり触らせる。



本校矢野教諭から

ちょっとご紹介



「さわる」しかけ絵本



「むしむしさわってごらん」

作・絵：デビッド・A・カーター

訳：きたむら まさお

出版社：大日本絵画

本体価格： ¥1,300+税

絵本の内容

きらきら、すべすべ、ぷっくら、さらさらなどのいろいろなむしが出てきます。怖がらずにそーっとさわってみましょう。子どもと一緒に目で、手で感じられるさわるしかけえほんです。



参考サイト：絵本ナビ

ご紹介した以外にも、触る絵本は本校図書室にもたくさんあります。お気に入りの絵本が見つかるといいですね。五感を使った体験と豊かなことばがけで、親も楽しみながらお子さんを育てていきましょう！